

# 平成 26 年度平塚市子ども・子育て会議

## 子育て支援事業推進部会 会議概要

日時：平成 27 年 3 月 13 日（金） 13:30～15:00

会場：平塚市教育会館 2 階 中会議室

### 1 議事

#### (1) 平成 26 年度次世代育成支援行動計画進捗状況について

平成 26 年度次世代育成支援行動計画進捗状況について、事務局から事業毎に、進捗度の説明を行った。また、前年度と進捗度が変更となった事業については、変更理由の説明を行った。

#### ア ありがとう！自分のいのち・みんなのいのち

##### ・1 (1) 子どもの権利の確保 (3 事業)

質疑応答なし。

##### ・1 (2) 児童虐待の防止 (2 事業)

委員：「1 (2) 2 養育支援訪問事業」について、「家事援助」という用語を使用しているが、ヘルパー資格研修では数年前に「家事援助」は「生活援助」という用語に変わったかと思う。「家事援助」を使用している理由はあるのか。

健康課：担当者に確認し、回答させていただく。

##### ・1 (3) 育ち環境の整備 (8 事業)

委員：「1 (3) 7 自然観察等事業」について、進捗度 4 となっている原因は天候の影響が大きいのか。そうであれば、努力で向上させることは難しいので進捗度を見直してもよいのでは。

事務局：担当課に確認し、回答させていただく。

##### ・1 (4) 家庭や地域の教育力の向上 (8 事業)

事務局：「1 (4) 3 学習の場の充実」については、進捗度が前年と変更になっている。このことについて、「昨年度と比較し、一眼レフ教室等、男性を対象とした教室を増加させることができたため、進捗度を 4 から 5 に上げた」と担当課から回答をいただいている。

#### イ すこやかに！育って

##### ・2 (1) 親子の健康づくり (16 事業)

事務局：「2 (1) 16 家庭における食育の推進」については、進捗度が前年と変更になっている。このことについて、「現在の開催回数は募集の人数に見合っているが、26 年度までの目標であった、親子朝ごはんクッキング教室を 8 回開催を達成できなかったため、また、25 年度から回数を増加できなかったため、相対的に進捗度を下げた」と担当課から回答をいただいている。

委員：「2 (1) 16 家庭における食育の推進」について、開催回数 8 回の目標で 5 回の開催となっ

ているが、この開催回数は、応募人数に見合っているのか。

健康課：予定していた人数に参加していただいている。5回という開催回数は現状の応募人数に見合っている。

委員：昨年度と開催回数及び人数に大きな差異はないが、進捗度4から3に下がっている理由は何か。

事務局：年8回の開催は平成21年から26年度までを通してではなく、徐々に回数を増やし、平成26年度時点で8回を目指すという目標である。「平成25年度から開催回数を増やすことができなかつたため、相対的に進捗度を下げた」と担当課から回答をいただいている。

委員：「2(1)4 訪問指導の充実」について、訪問率100%が目標となっているが、実績では79.9%で進捗度5となっているのはなぜか。

事務局：こんにちは赤ちゃん訪問の時期に里帰りしている方等、市内にいない方もいるため、実際に100%を達成することは難しい。しかし、訪問できない方についても連絡を取り合う等しているため、進捗度5とさせていただいた。

委員：「2(1)2 乳幼児健康診査の充実」についても同様か。

事務局：未受診者は把握しているため、同様に進捗度を5としている。

#### ・2(2) 障がい児への支援(6事業)

委員：「2(2)4 統合保育」について、25年度、26年度で進捗度1となっているが、今後の具体的な方向性を教えて欲しい。

事務局：統合保育事業を推進したいと考えている。しかし、現在は直近の課題である待機児童対策に注力したい。待機児童解消の目途が立った段階で、改めて統合保育について検討したい。

委員：待機児童の解消はどの程度の時期になりそうか。

事務局：今年度は、大野地区に分園を2つ、また、柳町の建替えが完了する等、ハード面の整備を進めることができたこともあり、平成27年4月の待機児童0人を目指している。しかし、保育所のニーズは増加傾向にあり、昨年度と比較し、100件程度申し込みが増加している現状もある。また、待機児童については、平成23年4月にも0人を達成したが、新たなニーズが創出され、同年5月には待機児童0人を維持できなかった経緯もある。この4月も待機児童0人を目指すのが、達成できたとしてもそれでこの問題を完全に解消したとは言えないと思う。

委員：統合保育については、待機児童問題を解消した後に着手するというのでよいか。

事務局：必ずしもそうではないが、なかなか手を広げることができないのが現状である。

委員：障がいを持つ児童が健常者と共に学ぶことができる機会は少ない。年数が過ぎると集団に入ることが難しくなる。障がい児保育という視点で、この事業には優先的に取り組んでいただきたい。

事務局：障がいを持つ児童を受け入れている事例もある。障がいを持つ児童は保育園に入れにくいということではなく、待機児童としては健常者と同様に扱っている。

#### ・2(3) 思春期の保健対策(1事業)

質疑応答なし。

ウ たのしく！子育てを

・3 (1) さまざまな子育て支援サービスの提供 (11 事業)

委員：3 (1) 3 ショートステイ事業の進捗度 1 について、説明していただきたい。

事務局：ショートステイ事業について、次世代育成支援行動計画では、計画策定時のニーズ調査結果を鑑み、平成 26 年度までに 1 箇所を実施するという計画を立てた。しかし、現在まで、市内にショートステイを実施できる施設が見つからないこと、市外の実施施設に平塚市児童を受入れる体制を作ることが難しいこと、ショートステイに関する市民からの問い合わせがほとんどないこと等を受け、実施については検討を続けていた。また、平成 27 年度からの計画である子ども・子育て支援事業計画策定時のニーズ調査(平成 25 年度実施)では、ショートステイ事業のニーズ量は「0」となっている。以上のことから当事業の実施については慎重に検討を続けたい。

委員：平成 25 年度から担当課が、こども家庭課から保育課に変更となっているが、当事業のニーズ量はこども家庭課の方が把握しているのではないかと。こども家庭課から平塚児童相談所への問合せは多く、ニーズ量が「0」だとは思わない。

事務局：平塚児童相談所が絡む様な緊急なケースであればニーズもあると思う。しかし、我々が想定しているショートステイ事業は、そういった緊急事態に対応する施設ではなく、親が泊りがけででかけるとき等に児童を預かり、保育を実施する事業である。

委員：つまり、障がい児や虐待の疑いがある児童を預かることは想定していないということか。

事務局：想定していない。また、そのようなケースはニーズ調査では浮かび上がらない。

なお、事業の実施にはリスクも想定しなければならない。市が委託して実際に当事業を実施する場合、おそらくではあるが、年間 1000 万円を超える委託料が想定される。これだけの資金をかけ、利用者がほとんどいなければ市民に対して説明がつかない。多額の資金を投入する必要がある事業のため、実施には慎重になる必要がある。

委員：「3 (1) 7 学童保育の充実・推進」について、目標数 34 か所に対して、実績が 37 か所となっている理由はなにか。また、「次年度の事業展開とその判断理由」欄の「事業内容を一部修正」とは具体的になにか。

青少年課：計画策定時に 34 か所という当初目標を立てたが、実際のニーズ量を鑑み、37 か所に設置するに至った。

「事業内容の一部修正」については、平成 27 年度からの計画である子ども・子育て支援事業計画では、研修の充実に注力するよう事業内容を修正する。

・3 (2) 親・子の交流の場づくり (7 事業)

質疑応答なし。

・3 (3) 情報提供・相談体制の充実 (5 事業)

質疑応答なし

・3 (4) 男女共同参画の促進 (1 事業)

質疑応答なし。

・3 (5) 職場環境の改善 (3 事業)

質疑応答なし。

・3 (6) 母子家庭の自立支援 (3 事業)

委員：母子の中に父子も含まれているのか。

こども家庭課：父子も含まれている。

・3 (7) 経済的支援の充実 (5 事業)

質疑応答なし。

エ のびのび！学んで

・4 (1) 学校（園）教育の充実 (11 事業)

委員：「4 (1) 7 日本語指導協力者派遣事業」について、対象者は外国から来た方が中心なのか。

教育指導課：「外国につながるのある児童・生徒」が中心となる。外国籍の方もいれば日本国籍の方もいる。

委員：対象者はどの程度いるのか。

教育指導課：平成 26 年度は児童・生徒の合計 220 名程度が対象となっている。

・4 (2) 相談活動の推進 (2 事業)

委員：「4 (2) 1 教育相談体制の充実事業」について、例えば不登校の児童・生徒に対する訪問相談等、ケース数及び訪問数が減っているが、進捗度が変わらない理由について説明していただきたい。

子ども教育相談センター：訪問相談まで至らず、その他の方法で対応ができたため。相談件数が増えれば良いとは一概に言えず、相談件数の増減は進捗度の上げ下げには直結しない。

オ ほっと！安心のまちを

・5 (1) 道路交通安全の向上 (2 事業)

事務局：当施策は、昨年度まで 3 事業だったが、「5 (1) 1 コミュニティ道路整備事業」が「5 (1) 3 歩道設置事業」と統合となったため、平成 26 年度実績としては 2 事業となっている。なお、「5 (1) 3 歩道設置事業」については、進捗度が前年と変更になっている。このことについて、「平成 26 年度までの事業目標は整備延長計 1,100m であるが、最終実績が整備延長計 969.1m (目標の 88.1%) だったため進捗度を下げた」と担当課より回答をいただいている。

委員：整備延長が目標に達していないとのことだが、歩道を整備しないと危険な箇所が放置されているということか。

事務局：詳細については担当課に確認が必要だが、一概に危険なところが残っているとは言えないと思う。歩道の設置は「安全ではあるがより安全を重ねるため設置を目指す」と言った箇所も多い。

・5 (2) 防犯の強化 (5 事業)

事務局：「5 (2) 4 通学路安全対策事業」については、進捗度が前年と変更になっている。このことについて、「交付団体数及び補助額が減少したため、それに伴い進捗度も下げた」と担当課から回答をいただいている。

委員：当事業の実績は 12 月末時点でのものとなっているが、今日現在までで実績は伸びているの

か。

教育総務課：12月末時点と比較し、申請団体数及び補助額も増加傾向にあるため、進捗度についても上方修正する予定である。

委員：「5(2)5 安全対策の推進」について、目標値及び実績が看板設置数になっている。進捗度についても看板の設置数で判断しているのか。このような性質の事業は、単純に看板を多く設置すれば効果が高いというわけではない。設置場所、周知方法の工夫を凝らし効果を上げる方がよいのではないか。

事務局：担当課に確認し、回答させていただく。

・5(3) 遊びの場づくり (2事業)

質疑応答なし。

・5(4) 街のバリアフリー化 (3事業)

質疑応答なし。

・5(5) 有害環境の改善 (2事業)

質疑応答なし。

## (2) その他

議事事項なし。

## 2 会議関係者

出席委員：落合委員、酒井委員、黒田委員、三石委員、鷺尾委員、吉野委員、山口委員、白勢委員、野坂委員、山岸委員

欠席委員：市川委員

傍聴者：0人

事務局：健康・こども部長、保育課6名、こども家庭課2名、健康課1名、青少年課1名、教育総務課2名、教育指導課1名、子ども教育相談センター1名

以上